

[公益5] 大学教職員の職能開発及び大学教員の表彰

5-1 情報通信技術を活用した優れた授業研究の評価と表彰

<事業計画>

情報通信技術を活用した教育力の向上を推進するため、文部科学省の後援を受けて全国の大学・短期大学を対象に「ICT利用による教育改善研究発表会」を実施し、優れた教育方法の実践を選定・評価・表彰し、インターネット等による公表を通じて情報通信技術活用による教育改善を啓蒙・普及する。

<事業の実施結果>

「ICT利用教育改善発表会運営委員会」を継続設置して、「ICT利用による教育改善研究発表会」を開催し、優れた教育方法を選定・評価・表彰した。以下に、委員会の活動状況について報告する。

ICT利用教育改善発表会運営委員会

平成25年5月11日、平成26年1月25日に平均7名又は8名が出席し、2回開催した。ICTを利用した教育力の向上を推進するため、ICT利用による教育改善研究発表会を実施し、1次選考及び2次選考を通じて優れた教育の取り組みに対して表彰を行った。また、研究論文を査読し、論文誌に掲載して刊行するとともに本協会のWebサイトに掲載して教育改善の啓蒙・普及を行った。

(1) 発表の募集

発表募集要項に中央教育審議会の答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」を踏まえて、能動的学修（アクティブ・ラーニング）への双方向的授業、教室外の事前・事後学修などの取り組みの推奨を明示することで、教育改革につながる発表となるよう募集を行った。

(2) 研究発表の選考

- ① 運営委員会で35件の応募について書類選考を行い、34件の発表を確定したが、後日2件辞退があり最終的な研究発表は32件となった。
- ② 1次選考は、25年8月10日に東京理科大学で発表者と参加者156名で開催した。選考規程に基づき、次のような基準で選考した。
 - * 教育上の問題解決を図るために、ICTを利用した教育改善の目的・目標が明確に示されていること。
 - * ICTを利用した教育改善の内容と方法が明確に示されていること。
 - * 客観的な評価方法により、教育改善の効果が明確に示されていること。その結果、9件を選考した。詳細は、巻末の事業報告の附属明細書【2-8】を参照されたい。
- ③ 2次選考は、10月5日に実施し、1次選考の発表ビデオと発表論文をもとに授賞基準に沿って実施した結果、以下の通り、奨励賞2件の授賞を決定した。

平成25年度受賞者

★奨励賞（2件）

「講義に替わりうるICTを用いたチーム基盤型学習（TBL）システムの開発」

日本歯科大学 葛城 啓彰

〔授賞理由〕

本研究は、微生物の特性や感染症の予防・対処方法を学ぶ「感染微生物学」にチーム基盤学習（TBL）を導入した取り組みである。予習確認テストへの即時フィードバック、グループで行うメモリーツリー作成、発表の相互評価に携帯端末によるレスポンスアナライザーを活用することで、事前・事後学修の徹底や授業の活性化に挑戦している。

「歯学教育を支援する学習到達度判定・Web自己学習統合システム」

北海道医療大学 二瓶 裕之、他6名

〔授賞理由〕

本研究は、歯科医師国家試験を見据えた幅広い分野の知識を6年間の学びの中で定着させるため、専門教育科目についてICTを活用した到達度判定（CBT）を実施して不得意分野を学生に認識させ、不足している知識をWeb学習システムで繰り返し学ばせている。ポートフォリオによる学習成果の確認と指導、教員の組織的参加など、教育支援に学部全体で取り組んでいる。

（3）選考結果の表彰

表彰は、平成25年11月26日の第8回臨時総会で発表者を招待して実施した。

（4）論文誌の発行

2次選考の対象論文について査読を行い、9件の論文を確定し、平成25年11月26日に論文誌「ICT活用教育方法研究」として1,900部発行して加盟校に配布した他、本協会のWebサイトで公表した。